

美郷町教育委員会
事務事業点検評価報告書
(平成 30 年度事務事業分)

令和元年 8 月
美郷町教育委員会

はじめに

美郷町教育委員会では、第2次美郷町総合計画における「喜びが広がる一豊かで活力を生み育むまち」という目標に向けて、「子どもの教育の充実」、「生涯学習の充実」という具体的な施策を掲げ事務・事業に取り組んできました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することになっております。

美郷町教育委員会でも、教育行政サービスの質の向上と効率化の実現のため、外部評価委員の意見を取り入れながら事務・事業の点検及び評価を行う、「美郷町教育委員会外部評価システム」を導入しております。

本報告書は平成30年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

この美郷町教育委員会外部評価システムを十分に活用し、次代を担う子どもたちが豊かな人間性を育み、将来の美郷を担う「みさとの子」を育成するために、家庭・学校・地域の子どもの育成力が総合的に働く教育の充実を目指してまいります。また、住民一人ひとりが生涯を通じて生きがいをもって生活できるように、生涯学習や社会教育、スポーツ活動を推進するとともに、歴史と文化財の保存と活用に取り組み、実効性の高い教育行政の推進を図るとともに、より信頼される教育委員会を目指してまいります。

令和元年8月

美郷町教育委員会

==== 目 次 ====

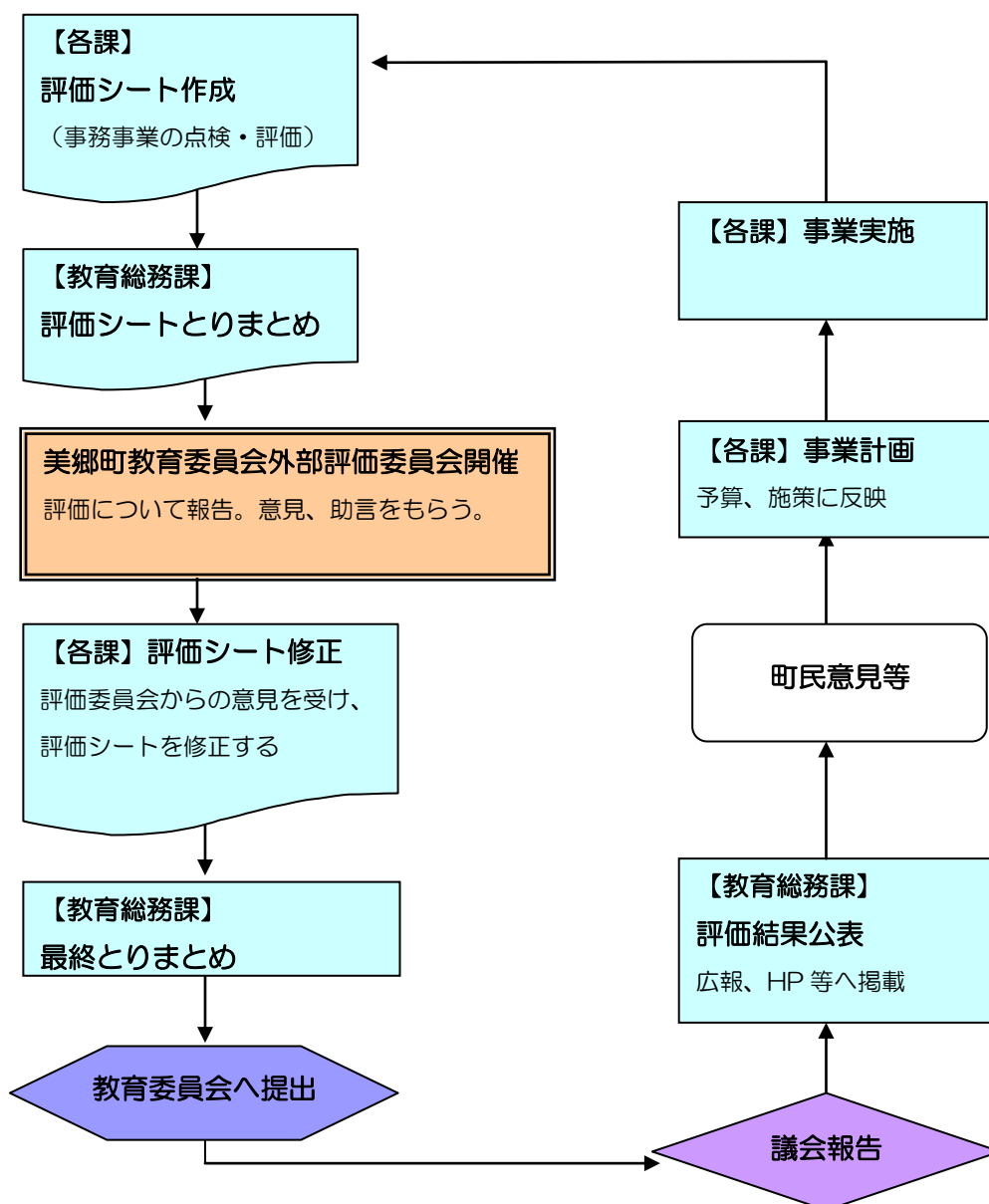
1. 美郷町教育委員会外部評価システムの流れ	3
2. 実施の方法	4
I. 評価シートの作成について	
II. 外部評価委員会	
3. 美郷町教育目標について	6
4. 事業の評価結果	8
(1) 必要性	
(2) 有効性	
(3) 経済・効率性	
(4) 目標達成度	
5. まとめ	12
(資料)	
美郷町教育委員会外部評価委員会設置要綱	13

1. 美郷町教育委員会外部評価システムの流れ

評価は、各事業等について担当課が評価シートを作成することから始まり、行政内部による評価を行います。この行政内部による評価内容について、町民や学識経験者で構成された「美郷町教育委員会外部評価委員会」から評価内容の客観性の検証と、改善に対する助言等をいただきます。

その意見を参考に最終方針を決定し、議会へ報告を行い、その後、評価概要や評価シートを公表します。公表によって町民の皆さまからいただいたご意見・ご要望も今後の参考にし、将来の事業計画に反映していきます。以上のサイクルを毎年繰り返すことで、事業の改善を進め、町民の目線に立った教育行政の運営に努めます。

評価システムの流れ



2. 実施の方法

I. 評価シートの作成について

(1) 評価の対象とする事業

評価対象事業は、町の総合計画の主要施策として定め、「平成30年度 美郷町予算に関する説明書」にある事業とします。平成30年度は46事業を評価の対象とし、うち2事業が新規事業でした。

(2) 内部評価における評価者(記入者)

内部評価(評価シート記入者)は各課の事業予算担当者です。

(3) 評価年度目標、実績・成果等

外部評価委員からのご意見等を踏まえて今年度の評価年度目標を定め、活動実績とその効果等については、具体的な数値等を用いて記入しています。

(4) 事業の評価

必要性	現在の町民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業の必要性があるかどうか、状況の変化に対応しているかどうかを評価します。
有効性	施策や運営方針、町で策定した総合計画の目的の実現にどの程度寄与しているかを評価します。
経済・効率性	事業のコストがかかりすぎていないか、最小の経費で最大の効果を発揮しているか、無駄がないかなど、経済性の面から評価します。また、事務作業に無駄がないか、更なる効率化が図れないかを評価します。
目標達成度	目標の達成状況の評価します。併せて、目標の設定水準が適切かどうかを検討します。

● 総合評価(内部評価および外部評価)

事業の各評価項目を勘案し、総合的に評価を行います。

総合評価のランク	A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
	D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

(5)判定説明及び考察

各評価項目の今後の課題や、抱えている問題点などについて、事業全体の視点から捉えた総合的なコメントを記入します。

(6)事業の方向性

内部評価結果を踏まえ、今後どのように事業を進めるかを選択しています。

Ⅱ. 外部評価委員会

教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図るため、美郷町教育委員会外部評価委員会設置要綱に基づき、5名の委員の方々からご意見・ご指導をいただきました。令和元年8月1日に「第1回美郷町教育委員会外部評価委員会」を開催。総合評価ランクが妥当かどうか、また、事業効果や考察の記について検討しました。令和元年8月9日には「第2回美郷町教育委員会外部評価委員会」を開催し、外部評価結果及び校正結果、評価委員意見などを最終確認しました。

3. 美郷町教育目標について

美郷町教育目標

「喜びがひろがる ー 豊かで活力を生み育むまち」

- 次代を担う子どもたちが「確かな学力」と「心豊かな人間性」を身につけるため、充実した学校教育活動を推進していくことが必要です。
- 住民が学ぶ喜びを感じ、生きがいをもって生活できるため、生涯を通じた学習やスポーツ活動を推進していくことが必要です。

基本理念

◇ こども園・学校と家庭における基本理念

豊かな人間性を育み、将来の美郷を担う人間の育成

◇ 生涯学習・社会教育における基本理念

心豊かなまちをめざして

～ 自らデザインし、自ら学び、ともに支え合う地域づくりの実践 ～

各分野の施策

◇ 家庭教育

- ① 家庭教育10ヶ条に基づく家庭教育の推進
- ② 家庭教育充実のための講座・講演会等の開催
- ③ 子育て支援冊子等の作成と活用
- ④ 放課後児童クラブにおける活動の充実

◇ 就学前教育・保育

- ① 認定こども園の教育・保育の充実
- ② 子育て支援の充実

◇ 学校教育

- ① 一人一人の可能性を最大限に伸ばすことを目指した知・徳・体の教育の充実
- ② ふるさと教育・キャリア教育の充実
- ③ 夢中になって粘り強く取り組む体験の充実と様々な人との交流推進

- ④ 社会のグローバル化に対応できる子どもの育成を目指す国際教育の推進
- ⑤ 特別支援教育や教育相談の充実
- ⑥ 連携を重視した学校づくりの推進
- ⑦ 施設面等での教育環境整備

◇ **生涯学習・社会教育と芸術文化の振興**

- ① 子どもたちの体験活動の充実
- ② 家庭・学校・地域が連携した取組の推進
- ③ 時代の変化に対応し、豊かな生活を送るための学習機会の提供
- ④ 優れた芸術や文化に直接触れる機会の提供
- ⑤ 芸術文化団体の担い手の育成支援

◇ **歴史と文化財の保存と活用**

- ① 歴史・文化財の保存と継承
- ② 歴史・文化財の利活用による交流の促進

◇ **スポーツ振興**

- ① スポーツ環境の充実
- ② スポーツ関連施設の利用促進
- ③ 安全、安心で誰もが楽しめるスポーツ施設の整備
- ④ スポーツによる健康づくりの推進
- ⑤ スポーツや文化・教育等を通じた国際文化交流の推進

4. 事業の評価結果

(1) 必要性

町民のニーズに変化があり、事業を行う必要性があるか。

すべての事業で「十分必要」及び「おおむね必要」と判断されており、町民ニーズの高さが表れています。「十分必要」の割合が年々上昇しており、いずれの事業も必要不可欠な事業、制度として定着していると言えます。

(上段：事業数、下段：(%))

区分	十分必要である	おおむね必要である	あまり必要でない
30年度 (46 事業)	39 事業 (84.8%)	7 事業 (15.2%)	—
29年度 (45 事業)	37 事業 (82.2%)	8 事業 (17.8%)	—

(2) 有効性

施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。

すべての事業で「十分寄与する」または「おおむね寄与する」と評価されました。町の施策や運営方針等、目的に沿った事業と判断され、継続実施が望まれました。

(上段：事業数、下段：(%))

区分	十分寄与する	おおむね寄与する	あまり寄与していない
30年度 (46 事業)	34 事業 (73.9%)	12 事業 (26.1%)	—
29年度 (45 事業)	32 事業 (71.1%)	13 事業 (28.9%)	—

(3) 経済・効率性

事務効率化、コスト縮減しているか。

すべての事業で「十分できている」または「できている」と認められました。いずれの事業も事務の効率化、コスト縮減に努めていると判断されました。

(上段：事業数、下段：(%))

区 分	十分できている	おおむねできている	できていない
30年度 (46 事業)	22 事業 (47.8%)	24 事業 (52.2%)	—
29年度 (45 事業)	23 事業 (51.1%)	22 事業 (48.9%)	—

(4) 目標達成度

計画通りに目標を達成できたか。

すべての事業で「達成できている」または「おおむね達成できている」と判断されました。ほぼ計画通りに目標を達成できていると評価されました。

(上段：事業数、下段：(%))

区 分	達成できている	おおむね 達成できている	達成できていない
30年度 (46 事業)	30 事業 (65.2%)	16 事業 (34.8%)	—
29年度 (45 事業)	28 事業 (62.2%)	17 事業 (37.8%)	—

【事業の方向性】

今後の事業の方向性では、「継続実施する」が最も多く、今年度の意見を次年度以降に活かし、さらに実効性の高い教育行政を推進することが求められました。

区分	さらに重点化する	継続実施する	改善見直しを検討する	休止、廃止を検討する
30年度 (46事業)	13事業 (28.3%)	32事業 (69.6%)	—	1事業 (2.1%)
29年度 (45事業)	13事業 (28.9%)	31事業 (68.9%)	—	1事業 (2.2%)

今年度完了した事業については、次のとおりです。

■「休止、廃止を検討する」(事業完了)

みさと育成プログラム事業 (中学生イングリッシュキャンプ)	平成27年度より実施した本事業は、中学生の英語教育に対する関心や英語力を高める経験を積むことができ、一定の成果を上げる事ができた。今後、タイ王国の学校等との交流を通じ、英語力を高める経験を更に推進することとなったため、本事業は完了とする。
---	---

【総合評価】

総合評価では、46事業において「A」または「B」となり、優れた取り組みが多くあり、成果が上がっていると評価されました。

区分	A	B	C	D
	優れた取組が多く、十分成果が上がっている	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要
30年度 (46事業)	32事業 (69.6%)	14事業 (30.4%)	—	—
29年度 (45事業)	28事業 (62.2%)	17事業 (37.8%)	—	—

【その他評価委員意見】

- 事業を開催したときには、子どもから大人まで必ずアンケート調査を実施してほしい。皆さんから頂いたご意見・ご要望等をもとに、更に様々な企画を立案・実施して行ってほしい。
- 不審者対策事業の子ども見守り隊について、年々会員登録者は高齢化してきており、集会にもなかなか参加できない状況にある。また、地域の人同士の繋がりが希薄になってきているため、日ごろからの声掛け等を行うことも少なくなってきている。子ども見守り隊の会員がそれぞれの地域で活発に活動できるような方策が必要と思われる。
- 伝統行事等伝承事業の「舟ッコ流し」について、少子化による担い手不足のため、単独町内会での参加が不可能になり、合同チームで祭りに参加しなければならなくなってきている。三百年の歴史ある伝統行事をこれからも継承できるような仕組みを作してほしい。

5. まとめ

平成30年度の重点的な施策として、“豊かな人間性を育み、美郷町の将来を担う人間の育成”を目指した家庭教育、就学前教育・保育、学校教育の推進、心豊かで生きがいのある生活を送るための生涯学習・社会教育と芸術文化の振興、長い歴史の中で受け継がれてきた伝統文化や文化財の保存と活用、スポーツによる健康づくりを目指した各種スポーツ事業を行いました。また、タイ王国を相手国としたホストタウン登録による東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた気運も高まってきており、スポーツのみならず、文化・教育等の分野でも国際交流を図る取り組みを行いました。

これらの平成30年度実施事業において、おおむね良好な事業執行であると評価出来たことは、多岐に渡る住民ニーズに美郷町教育委員会が応え、適正な業務執行が行われたためと考えられます。

一方で、関係機関との連携を強化し、多くの住民の皆さまに有効性があるよう事業を拡充展開すること、継続的な事業でも今年度の反省を踏まえ改善・向上する姿勢を忘れないことなど、多くのご指摘もありました。

全体として、美郷町教育委員会の施策は目標を達成していると判断できますが、今後は「第2次美郷町総合計画」に基づき、計画的、効率的に教育行政の推進に努めるとともに、美郷町が目指す教育の基本的な方向性を示した「美郷町教育大綱」のもと、より一層充実した教育活動を展開して参ります。

外部評価委員会の委員の皆さまには、事業評価シートの吟味・査読から、委員会内での慎重な審議に至るまで大変お手数をお掛けしました。忌憚のないご意見を賜り、公正な評価判定の指標とさせていただきましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

○美郷町教育委員会外部評価委員会設置要綱

平成20年6月2日教育委員会訓令第4号

(設置)

第1条 美郷町教育委員会（以下「教育委員会」という。）の権限に属する、事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価を行うことで、地域の実情と住民ニーズに応じ、より効果的な教育行政の推進に資するとともに、事務の管理及び執行状況についての透明性の確保と町民への説明責任を果たすため、美郷町教育委員会外部評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 教育委員会が実施する事務の管理及び執行の状況についての点検と評価
- (2) その他委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員5人以内で組織する。

- 2 委員は、教育に識見を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
- 3 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選によりこれを定める。
- 3 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する者をもって充てる。
- 4 委員長は、委員会を代表し会務を総理する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会の会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員会は、必要があると認めるときは、会議の委員以外の者の出席を求め、その説明又は意見を聞くことができる。
- 5 委員会の会議は原則公開できるものとする。ただし、公開することが相当でないと委員会が認めるときはこの限りでない。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、教育委員会教育総務課において行う。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

- 1 この訓令は、平成20年6月2日から施行する。
- 2 第5条第1項の規定にかかわらず、第1回の委員会の会議は教育委員会が招集する。